

農業振興対策について



菊池 充 議員
(無党派)



生産拡大が進む菌床しいたけ

問 集落営農と、担い手育成の振興策について伺う。

答 現在、農林水産省は、全国的に農家所得の低迷による後継者不足や、耕作放棄地の増加などの問題を抱えており、24年度から「人・農地プラン」の全市町村の策定を進めようとしている。このプランは、言

わば「人・農地の問題を解決するための未来の設計図」である。これは市が作成することになり、今後の経営体や農家の皆さんからのアンケート調査や、意見を聞く中から、それぞれの経営体や地域の課題等々を浮き彫りにし、課題解決に向けたプランを策定する。そして、集落営農や、担い手

育成に対してきめ細かく隙間を埋める対策を講じて支援を図っていく。

問 農産物の主産地化の振興策について伺う。

答 生産振興と主産地化・ブランド化の推進については、タフ・ビジョンでも最も重要な項目と考えている。ビジョンでは、ホウレンソウ、レタス、ピーマン、ニラ、契約野菜、花はトルコギキョウ、特産品ではタラの芽、ブルーベリー、菌床シイタケ、ワサビなどを重点的に拡大することとしている。しかし、近年は葉物の価格低迷などで生産量が伸び悩んでいるものが増えている状態。重点品目については、今後もJ・Aと協議しながら更なる力を入

れて振興していくものを絞り込み、主産地化・ブランド化を図っていきたい。

問 6次産業の振興策について伺う。

答 イトーヨーカドー、エスファームとの連携した牛肉販売の取り組みはご案内のとおりだが、現在これに農林水産物を加えた加工品製造の取り組みを検討している。今後も牛肉を核として、他の農林水産物の生産、加工及び販売に繋げていきたい。また、小さな取り組みについても後押しをして、支援していきたい。

問 野生鳥獣被害への対策について伺う。

答 野生鳥獣被害に對して、様々な対策を拡大し、支援している。当市のシカ被害が拡大していることから、市内の関係機関の意見も含めて、鳥獣保護区や休猟区の一部見直しなどについて、県に要望している。シカ肉の利活用については、野生動物であり課題も多いが、広域的な取り組みについて、関係機関に要望しながら検討を進めていく。